第7回グローバルEMBコンテストを開催

コーセー

コーセーは、国内外で活躍する美容部員の接客・メークアップ技術、レッスン能力を競う「第7回グローバルEMBコンテスト」を4月16、17日に開催した。初日の16日には、国内外約4600名の美容部員の中から最終選考まで勝ち残った17名（日本人スタッフ10名・海外スタッフ7名）が同社の王子研修センターに集結し、日頃磨き上げた技を披露した。

同社は、カウンセリング活動を顧客接点の要と位置づけ、美容スタッフの教育に注力しており、「お客様の期待に応え、期待を超える」を意味する「Expectation Meet Beyond」（EMB）の精神を根幹に据え、接客・メークアップをはじめとする様々なトレーニングを行っている。

また、日頃の活動を通じて高めたスキルを競い合い、美容スタッフのモチベーションを高め合う場として1975年度から全国規模でのコンテストを毎年開催し、2012年度からは、国内外の美容スタッフが一堂に会して競う「グローバルEMBコンテスト」として新たなスタートを切っている。

岡崎氏

開会の挨拶に立った岡崎俊巳営業推進部美容教育課課長は、「国内外の美容部員が一堂に会して技術を競い合うコンテストを開催でき、とても嬉しく思う。国によって言葉や文化などに違いはあるものの、お客様に喜んで欲しいという精神は変わらない。是非、緊張感のある中でもコンテストを楽しむという気持ちを持ち、リラックスして最高のパフォーマンスを発揮してほしい」と述べた。

コンテストでは、選抜された17名がカウンセリングからクレンジング、スキンケア、メークアップ、レッスン指導、テクニック&アドバイスシートへの記入までを制限時間60分で仕上げるべく奮闘した。

そのプロセスを審査員が厳しくチェックした後、出場者1人あたり1分間のプレゼンテーションタイムが設けられ、お客様役の悩みに対しての提案内容やメークアップのポイントについて審査員にアピールした。

閉会に当たり、メークアップアーティストの石井勲氏は、「皆さん笑顔で接客していてとてもよかった。特に、お客様役の悩みに対し、使い方や使用量をしっかり提案できていた。今後、デジタル化が進む中にあって、お客様への思いやブランドの思いを伝えられる美容部員になってほしい」と語ったうえで、課題点として、「トレンドのツヤを意識したメークをしている人が多く、流行に敏感であることはとてもよかった。しかし、ベースメークのツヤ感が足りず、フェースパウダーを塗布してマットな仕上がりになっている人やメークバランスを意識できていない人もいた。必ず一歩離れて確認してほしい」と述べた。

グランプリは仙台支店の吉田香さんが受賞

翌17日には、グランプリ、準グランプリ受賞者の発表と表彰式が東京ドームホテルにて行われ、今年のグランプリには吉田香さん（仙台支店）、準グランプリには岡本雅慎（マサミ）さん（関西支店）、魏玉潔（ウェイユウチェン）さん（台湾）が選ばれた。

グランプリを受賞した吉田さんは、「準グランプリだった3年間、たくさんの応援や励ましをいただいた。先輩や後輩など、支えていただいた皆さんに感謝している。この3年間で感じた緊張感や悔しさを決して忘れない。過去3年間との違いとして、話題の提供や表現力といった点でお客様の気持ちに一歩踏み込むことができたと思う。今回をゴールとせずに、機会があれば2連覇を目指したい」とコメントした。

準グランプリの岡本さんは、「正直、受賞するとは思っていなかった。ただ心の中では、舞台で自分の頭にティアラの冠を被せたいという気持ちがあった。今回は立ち居振る舞いと所作、カウンセリングが勉強になった。入社2年目で、まだステップアップの途中なので、次のコンテストではグランプリを獲れるように精進していきたい」と抱負を語った。

同じく準グランプリを獲得した魏さんは、「このような盛大なコンテストの開催に心より感謝している。このコンテストに参加することでEMB精神『お客様の気持ちに期待に応え、期待を超える』という気持ちを身近で感じている。コンテストを通じ、自分自身が満足できるように笑顔でいることが大事だと思った。この気持ちを台湾に持ち帰り、今後の接客に活かしたいと思う」と述べた。

記者の窓

暮らしの変化

8年ぶりに両親の出身地である宮崎を訪れた。父方の祖母の家は一部がリフォームされ、使い勝手のよい家になっていた。父方の従姉妹の1人が結婚したため、年末に行われる予定の結婚式の話や旦那さんの話などで穏やかに話が進んだ。

一方、母方の祖父母の家に行くと、掃除がされておらず、ホコリが溜まっていた。昔は綺麗好きな祖母が掃除していたのだが、年を重ねて掃除が億劫になったらしく、昔の雰囲気から一変していた。地元にいる叔父夫婦が掃除しようとしても「いいからいいから」と拒否されていると聞いていた。

そこで、我々は軽量掃除機を購入してプレゼントし、使い心地を確かめるという体で掃除しようとした。しかし、一部屋掛けたところで祖母にコンセントを抜かれてしまい、掃除機が掛けられなくなってしまった。

今度はハンディタイプのフロア用そうじ道具を購入し、有無を言わせず拭き掃除をした。掃除機は止められてしまうが、これなら止められない。一通り掃除をし、充実感で満たされながら宮崎を発った。

高齢者だけで暮らすのは難しく、周囲の助けが必要なのは間違いない。住まいが遠方のため祖父母の様子を常に把握することは難しいが、気に掛けていようと思う。（黒）